

なは女性センター25周年記念

女性センターの果たしてきた役割、 そして、これからを考える 座談会

1996年10月1日の「なは女性センター」の開館から、今年25年目を迎えます。

女性センターの設立を強く望んでいた女性たちの思いである、「人権尊重、男女平等による社会の創造、女性の働く権利の保障」は前進しているでしょうか。

オープンから25年目にあたり、女性センターの成り立ちやジェンダー平等実現の拠点としての女性センターの課題について、女性センター設立以前から深い関わりのある3人のパネリストに、ざっくばらんに語っていただく座談会を開催します。

日時: **10月1日(金)**

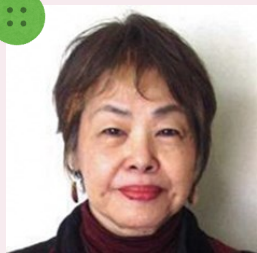
午後**2時～4時**

会 場：なは女性センター第2学習室

対象者：関心のある方

定 員：18人（事前申込先着順）

パネリスト



高里 鈴代
(強姦救援センター・
沖縄 レイコ代表)



宮城 晴美
(沖縄女性史家)



山城 紀子
(ジャーナリスト)

***パネリストのご紹介は、裏面(2P)をご覧ください。**

*市在住・在勤・在学の方は、手話通訳が利用できます。9月25日(土)までにお申し込みください。
なお、一時保育は当面の間、休止いたします。

*新型コロナウイルス感染症などの状況により、変更する場合があります。

なは女性センターを利用される皆さまへご協力をお願い



「なは女性センターにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って、ご利用いただきます。

体調のすぐれない方は、ご利用をお控えください。マスク着用、検温、手指消毒のご協力をお願いします。

今後の状況により、変更する場合があります。最新の情報は市ホームページでご確認ください。

県の「緊急事態宣言」発令中のため、当面の間、休館いたします。

なは女性センター25周年記念 座談会

女性センターの果たしてきた役割、そして、これからを考える



パネリスト

高里鈴代さん



▲第1回「女性への暴力ストップ市民教室」は、高里さん(写真左)が講師を務めてくださいました。センタースタッフによるロールプレイも行いました。

1940年生。東京都女性相談センターで電話相談員、那覇市婦人相談員を経て、1989年から4期15年那覇市議会議員。現在、「強姦救援センター・沖縄(REICO)」代表。「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」共同代表、「軍事主義を許さない国際女性ネットワーク」沖縄代表など。

著書『沖縄の女たち—基地・軍隊と女性の人権』(1996年 明石書店。共著『一沖縄—社会を拓いた女たち』(2014年 沖縄タイムス社)。『沖縄からの提言 戦争とこころ』(2017年 沖縄タイムス社)。『沖縄にみる性暴力と軍事主義』(2017年 富坂キリスト教センター編 御茶の水書房)。1996年エイボン功績賞、1997年土井たか子人権賞、2011年沖縄タイムス賞(社会活動)など。

2001年に「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)が施行されました。女性センターでは、同年4月から「女性への暴力ストップ市民教室」を毎月開催し、現在は、相談室「ダイヤルうない」で、「ストップDV 情報提供」を行っています。

▼沖縄戦と日本軍「慰安婦」展実行委員会と市の共催で、企画展とギャラリートークを市歴史博物館で開催しました。2週間の展示期間中、県内外から1800人を超える来館がありました。



パネリスト

宮城晴美さん

1949年、座間味村に生まれる。沖縄の月刊誌の記者、編集者を経て、フリーライターに。『座間味村史』(全3巻)をまとめたあと那覇市職員となり、『那覇女性史』(前近代・近代・戦後編)を発行。その後、那覇市歴史資料室に異動し、『那覇市史』の編集に携わる。

2010年3月那覇市歴史博物館を定年退職し、沖縄大学、琉球大学、沖縄国際大学で非常勤講師を10年勤める。沖縄女性史家。著書に『新版 母の遺したもの 沖縄・座間味島「集団自決」の新しい事実』(2008年 高文研)他。1994年より、新沖縄県史編集委員会委員を務め、現在副会長。女性史部会長として『沖縄県史 女性史』(沖縄県教育委員会)を2016年刊行。

沖縄ではトートメー(位牌)の継承と財産分与について男性を優先する考えが、日常生活の中に様々な形で慣習としてあり、女性への不平等な扱いが多くあるため、女性センターでは、97年から継続してトートメー(位牌)継承問題について講座を開催しています。



▲宮城さんのトートメー(位牌)の継承についての講座では、沖縄女性の歴史を多くの方が学びました。



パネリスト

山城紀子さん

1949年生。1974年沖縄タイムス入社。学芸部・社会部記者、学芸部長を経て編集委員兼論説委員。2004年退社。担当した主な連載は「社会の谷間に赤ちゃん置き去りの背景」「医療過誤訴訟の周辺」など。1998年連載の「共生社会を拓く」で新聞労連大賞優秀賞、同年著書『心を病んでも』で平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞、2002年連載「医の今」でファルマシア医学記事特別賞。

記者時代から女性問題をはじめ、子どもや高齢者、障がい者問題、医療や福祉の問題等をテーマに執筆を続けている。

著書『人を不幸にしない医療』(岩波現代文庫)『(女性記者)の眼—やわらかな社会へ向けて』(ポードアインク)。共著『一沖縄—社会を拓いた女たち』(沖縄タイムス社)。

女性記者として当事者に寄り添った視点で取材し続けた山城さんに、男女雇用機会均等法施行から30年の機会に沖縄社会の変化について、ジェンダー平等の視点からお話いただきました。「女性・子ども」に寄り添う取材エピソードに、多くの方が共感し、「生きづらさを感じているすべての人の生きやすさ」について考える機会となりました。

▼2015年の那覇市男女平等週間シンポジウムでは、山城さんをコーディネーターに、那覇市女性議員7人を招聘し、参加者とともに、「個人的なことは政治的である」について考えました。



▲2003年に新都心移転記念シンポジウム「創造しよう自分の活動の場」で、基調講演を行う山城さん。

なは女性センター 25周年

25周年を迎えるにあたり、
そのあゆみを振り返ります。

なは女性センター祭り

1997年度末には「なは女性センター祭り」を開催し、サークルで利用されているみなさまの活動報告や発表を行い、交流の場として集いました。



▲第1回「なは女性センター祭り」では、サークル活動団体の「石なぐの会」のみなさまの「かぎやで風」で、オープニングを飾っていただきました。(97年3月)



市民向け講座 1991～1994年には、県外講師を招いた「市民女性学講座」を開催。
また、夏休みには、親子で学ぶ「ジェンダー」講座など、多くの方々に、女性センターを利用していただくようになりました。



◀子どもの“自分らしさ”を親子で見つけ、「女の子・男の子」と性差でわけない、平等な社会について考えました。(97年8月)

なは男女共同参画都市宣言

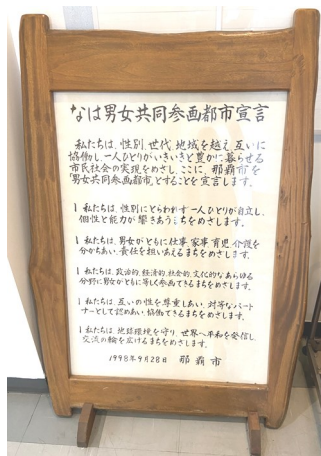
1998年、市は「第2次那覇市女性行動計画」を策定し、「第3次那覇市総合計画」(1998年)の基本計画に「男女共同参画社会の実現」が位置づけられたことにより、9月28日に「なは男女共同参画都市宣言」を発表しました。
当日は、「女性政策新時代—市民と行政のパートナーシップを求めて」と題して、上野千鶴子さんを講師にお招きし、男女共同参画都市宣言フォーラムを開催しました。

そこで、その年の那覇市の新規採用職員の代表、男女各1名が「宣言文」を読み上げました。

◀「男女共同参画都市宣言」フォーラムで宣言文を読み上げる那覇市の新規採用職員の女性代表と男性代表。壇上には、「第2次那覇市女性行動計画」の表紙デザインと同じ紅型のタペストリーが、染色家の平井真人さんのご協力でも飾られました。



▲市民女性学 講座では、「わたちのめざすアジア」と題して、松井やよりさんをお招きし、さまざまな暴力と戦うアジアの女性の人権について学びました。(97年2月)



▲97年に木工講座の講師、古我知毅さんから「なは男女共同参画都市宣言」を記念して、木枠の寄贈がありました。なは市民協働プラザ1階に常設されています。

Book

★女性問題やジェンダーに関する図書の貸し出し及び資料の閲覧ができます。★貸出し期間：2週間 お一人2冊まで

オススメ本を
ご紹介します♪

①『夫婦の関係を見て子は育つ』 親として、これだけは知っておきたいこと

信田さよ子 著/梧桐書院/2004年8月発行

子どもにパートナーへの不満など、愚痴をこぼしていませんか。本書によると、子どもは大人が考えている以上に両親の関係性を鋭く観察し育ちます。著者は、夫婦の関係がどのように子どもへ影響するのか、事例を紹介しています。友だちとの会話で「子どものために」離婚しない、自分の両親のような夫婦にはなりたくないなんて話したり聴いたり。娘、妻、母などの肩書を脱いだあなたは、今幸せですか。



②『孤独な世界の歩き方』 ゲイの心理カウンセラーの僕があなたに伝えたい7つのこと

村上裕 著/イースト・プレス/2017年5月発行

セクシュアルマイノリティの当事者によって書かれた本書は、著者自らの体験を交えた7つのテーマが記されています。好きになる対象が異性ではなく同性であることや、虐待やいじめにあった子ども時代の記憶は、著者の生き方にどう影響したのでしょうか。誰かに恋をするということ、誰かを愛するということ、働くということ、孤独であるということを読み手に優しく語りかける1冊です。



③『女という生きもの』

益田ミリ 著/幻冬舎/2014年7月発行

本書を読みながら共感するのは、人に言うまでもないけど時に出くわす言葉に詰まるような体験です。例えば、子どもがいてもいなくても、そのひとりの幸福があるのだと著者が素直に受け入れる場面や、女性の社会的な地位も人格も存在さえも、男性に所有されたモノと化す場面です。お酌はしない等、「男性が理想とする女性像」から解放されるためのヒントが記されています。



相談室「ダイヤルうない」

周囲に話せる人がいない、自分の気持ちをわかってもらえない。そんな時、「ダイヤルうない」を利用してみませんか。生きがい、家庭の問題など、女性の抱える様々な相談に応じ、自分の意思で人生を選択するために情報提供し、サポートします。

- 電話相談
- 面接相談(女性のみ・要予約)
- 法律相談(女性のみ・予約制)

098-861-7515

月～土 午前9時～12時／午後1時～5時

「ストップ・DV」情報提供

相談室「ダイヤルうない」では、ドメスティック・バイオレンス(DV)で悩む方を支援するための情報提供を行っています。詳しくは相談室「ダイヤルうない」へお問い合わせください。



性の多様性に関する相談

あなたが「自分らしい生き方」を自らの意思で選択できるように、一緒に考えます。どなたでもご相談ください。

那覇市パートナーシップ登録

「那覇市パートナーシップ登録」は、戸籍上の性別が同じである2人の申請に基づき、市長が両者をパートナーシップ関係にあると認めた場合、その関係について登録簿へ登録し、証明書を交付するものです。

■「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言(レインボーなは宣言)の理念に基づく取組です。登録によって何らかの法律上の効果(婚姻、相続、税金の控除など)が生じるものではありません。

■お問い合わせ・申請の予約■

098-951-3203

◆月～金：午前9時～午後5時

* 祝日、慰霊の日(6/23)、年末年始を除く

登録数 **37組**

2021年9月15日現在

レインボー交流会の開催について

「交流の場がほしい」「当事者と知り合いたい」「性の多様性について語りたい」といった声から生まれた、誰でも参加できる交流会です。みんなが安心して語り合える場所作りを目指します。

開催日：未定 主催：市民団体てーだあみ

問合せ先：tiidaami.okinawa@gmail.com

※「レインボー交流会okinawa」で検索すると、フェイスブックで最新情報を確認できます。

→ <https://www.facebook.com/rainbow.okinawa/>

with you おきなわ

沖縄県性暴力被害者ワンストップ支援センター

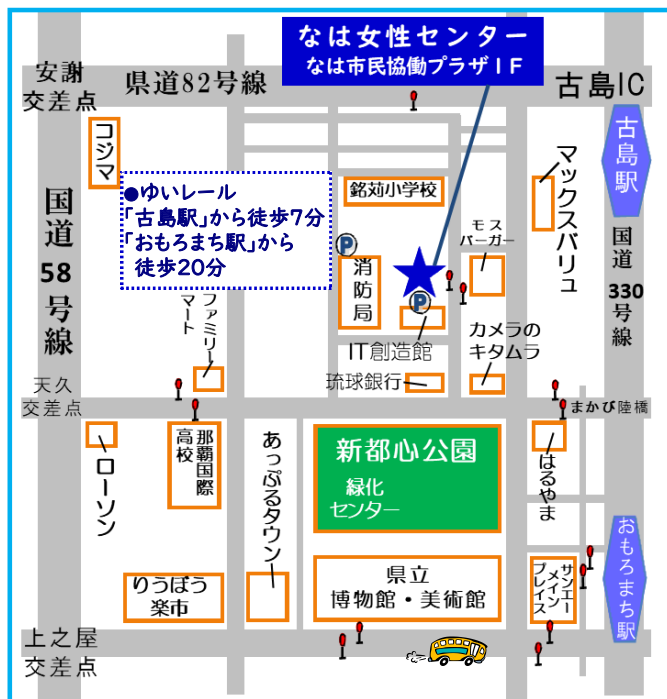
はやくワンストップ
#8891
24時間365日

性暴力の被害にあわれた方の意思を尊重しながら、医療的支援を含めた必要な支援を行っています。24時間365日体制で相談を受け付けていますので、いつでも相談できます。

なは女性センターから

(姉妹でなかよく♡) →

★なは女性センター担当職員(仲宗根)に、8月上旬、第2子が誕生し、8月16日～9月15日までの1か月間、育児休業を取得しました。コロナ禍のため、出産に立ち合うことができなかったのですが、予定日より10日早く生まれたため、慌ただしく業務を引き継ぎ、(うれしそうに)休暇に入りました。(◎_◎;) 育児休業中のエピソードや、子どもとの関わりについて、次号からお伝えしたいと思いますので、乞うご期待ください♪



◆なは女性センター講座について

*受講希望の講座は、なは女性センター窓口、電話、FAX、Eメールでお申し込みください。また手話通訳、一時保育(現在休止中)の利用は、那覇市在住・在勤・在学の方が対象です。(事前予約が必要)

お問合せ 那覇市銘苅2-3-1(なは市民協働プラザ1F Aコア)
TEL. 098-951-3203 FAX. 098-951-3204
Email: s-heidan002@city.naha.lg.jp

開館時間 月～金：午前9時～午後9時 土曜日：午前9時～午後5時
休館日 年末年始(12/29～1/3) 日曜日・祝日・慰霊の日(6/23)

駐車場のご利用について

「なは市民協働プラザ」の地下駐車場と消防局隣の「ナハメカルパーキング」は有料です。センター利用者は、料金の一部が免除されますので「駐車券」を事務室にお持ちください。

☆なは女性センター利用者の一部免除料金

最初の2時間まで	100円
最初の2時間を超え1時間までごとに	100円
※利用時間に1時間に満たない端数は1時間として計算。	